

第114回 日本皮膚科学会総会 イブニングセミナー 18

フラクショナル炭酸ガスレーザー治療の 最新 update

日時：5月30日(土) 18:25 ~ 19:25

会場：パシフィコ横浜 第7会場 3F 303

座長：川名誠司先生(日本医科大学皮膚科名誉教授)

森脇真一先生(大阪医科大学皮膚科教授)



◇演題 フラクショナルレーザー治療による skin rejuvenation

◇演者 船坂陽子先生(日本医科大学皮膚科教授)

光老化皮膚を改善するには、紫外線により損傷を受けた組織、細胞を除去し、再生する必要がある。現在のところ、その治療法としてはレチノイド、ケミカルピーリング、Intense Pulsed Light, ablativeもしくはnon-ablativeのfractional laser、高周波が用いられている。我々は日本人女性に対し、フラクショナル炭酸ガスレーザーおよび高周波を用いた治療を施行し、レプリカ解析にてしわに

対する改善効果が得られることが判明した。しかしながら、フラクショナル炭酸ガスレーザー治療において、照射密度やエネルギー量にて、どのような皮膚への熱損傷が生じ、創傷治癒がおきていくのかについては、一部の論文において生検による組織学的検討がなされているのみである。今回光コヒーレンストモグラフィおよびin vivo共焦点レーザー顕微鏡 VivaScope1500を用いて検討した結果を交えて、皮膚に対してどのような変化が生じているのかを考察したい。



◇演題 当院における炭酸ガスフラクショナルレーザーの 臨床応用と活用テクニック

◇演者 林原伸治先生(林原医院)

炭酸ガスフラクショナルレーザー「SmartXide DOT」におけるフラクショナルモードにおいては、皮膚に対する収縮率が高い2段階ピークパルス波形(スマートパルス)を有し、パワー、パルス照射時間、照射点間距離(密度)、スタック(同一点連射モード)の4つのパラメーターを自由に可変できるため、オーダーメイド治療が可能である。皮膚収縮率の高さを利用した「まぶたのたるみ治療」、

「眼瞼周囲、顔面の若返り治療」としてマドンナリフトが報告され認知されている。今回、陳旧性瘢痕としてぎ瘡後などの陥凹性瘢痕、リフトカットなどの線状瘢痕に対する評価、および長期経過について述べるとともに、新しい治療応用として、睫毛内反症治療にも有効性が確認できたため報告する。また爪甲に照射し微小穴をあけ外用抗真菌剤をdrug deliveryさせることで爪白癬に対しても有効性が確認されるなど、今後も新しい分野への臨床応用が期待される。

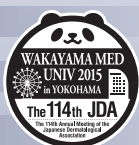
共催：第114回日本皮膚科学会総会

株式会社 DEKA JAPAN

〒107-0062 東京都港区南青山 2-21-37

TEL:03-5785-2133 mail:info@dekajapan.jp

URL: www.dekajapan.jp



The Code of Excellence